

横田英史の 書籍紹介コーナー



AIファースト・カンパニー ～アルゴリズムとネットワークが 経済を支配する新時代の経営戦略～

マルコ・イアンシティ、カリム・R・ラカーニ、
渡部典子・訳
英治出版 2,640円(税込)

ハーバード・ビジネス・スクールの教授がAIを前提にした企業経営のフレームワークを提示した書。データ、アナリティクス、AIを動力源にデジタルネットワークを活用する「デジタル企業」とは何か、どうすればなれるのか、リーダーはどのように変革を進めるべきかを論じる。リーダーには継続的かつ全面的なコミット、賢明な一意専心のリーダーシップが不可欠だと強調する。

筆者は多くの事例を挙げて、AIファーストの必然性を説く。各社で共通するのは、AIを中核に置き、人間の労働力の代わりにコードで成り立つ組織を構築したこと。価値提供のクリティカルポイントから人間を外し、周辺に位置づける。業務固有の知識や専門性よりも、ネットワーク効果や学習効果を重視するのも特徴である。生成AI以前に出版されており、弱いAIを前提にしているところには注意が必要だ。

半導体ビジネスの覇者 ～TSMCはなぜ世界一になれたのか？～

王百禄、沢井メグ・訳
日経BP 2,200円(税込)

飛ぶ鳥を落とす勢いのTSMC(台湾積体回路製造)の歴史、経営方針・戦略、経営陣、組織、ガバナンス、知財戦略などに

ついて、台湾のジャーナリストが詳細に綴った書。創業者であるモリス・チャンの経歴や経営哲学、UMCやエイサーといった台湾企業との関係、インテルやサムスンに対する競争優位性にも触れる。最後に、緊迫化する中国との関係、電力や水資源の不足など、TSMCが今後10年に直面するリスクの数々についても言及する。

筆者は、TSMCの競争力の源泉として7つの項目を挙げる。筆者はそれぞれについて分析を加え、他の台湾企業やインテル、サムスンなどに対する優位性を明らかにする。TSMCについて知っておくべきポイントを的確に押さえている。国家安全保障と密接に関係する半導体のサプライチェーンに脚光が当たる今、一読に値する書である。

東大教授が語り合う10の 未来予測

瀧口友里奈・編集、暦本純一、合田圭介、
松尾豊、江崎浩、黒田忠広ほか
大和書房 1,980円(税込)

異なる専門分野の11人の東大教授が、エネルギー、教育、宇宙、IT、仮想空間、AI、国家、生命、ビジネス、環境について語り合った書。普段質問される側の東大教授が、専門外のテーマについて素朴な疑問を投げかける。

4つのパートで構成し、それぞれ3人の研究者が対談する。イーロン・マスク評、GAFA評、日本企業の問題点、半導体の民主化、宇宙エレベーター、メタバース、6G/7G/8G通信、認知症、パーキンソン病など、話題は多岐にわたる。素人感覚の質

問に、その分野の研究者が噛み砕いて回答する。

最も興味深かったのは、暦本純一、合田圭介、松尾豊の対談である。人間に能力をダウンロードする時代になる、1000歳まで生きる人間を作ることは可能か、イーロン・マスクの「ヤバさ」とは、プレストはもう古い、など楽しめる。

これまでの経済で無視されてきた 数々のアイデアの話

～イノベーションとジェンダー～

カトリーン・キラス=マルサル、山本真麻・訳
河出書房新社 2,310円(税込)

「女性向け」と刷り込まれたモノを下に見るジェンダー観が、数々のアイデアやイノベーションの芽を摘み、遅らせ、闇に葬ってきたことを検証した書。キャスター付きスーツケースや電気自動車、宇宙服などの事例が面白い。思い込みから自分を解放し、クリエイティブな発想を生み出す“out of the box”の大切さを感じさせられる。

経済システムは女性のアイデアを意図的に排除してきた。イノベーションとは、支配し、潰し、破壊しなければならないという固定観念が、残酷で非人道的な経済を作ってきた。別のやり方を見つけるには、ジェンダー観を変えなければならない。AIが人間をしのぐ合理的思考力を手に入れたときに残されるのは、「女性的」とラベル付けされてきた資質だとする。他者のニーズへの理解、多様な状況や人に寄り添う感情スキルや社会スキルなどである。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、2024年3月に(株)観瀾舎を設立し代表取締役社長、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

